

ICTを活用した効果的な授業作り

～学習方法や支援のあり方を探る～

千葉県立四街道特別支援学校

電話 043-422-2609

FAX 043-424-4679



研究のポイント

本校は24・25年度に院内学級に向けてのICT活用による「Web授業支援」、26年度はそれを高等部の訪問学級へ広げ、昨年は高等部の遠隔授業の効果やあり方についての研究を行った。今年度は、それを学校全体に広げ、ICTを活用した授業の実践をまとめ、校内全体に向けた取り組みへの可能性を探る。

■学校の概要 <http://www.chiba-c.ed.jp/yotsukaido-shi/>

本校は、隣接する独立行政法人下志津病院と連携し、病弱教育を行っている特別支援学校であり、児童生徒数77、教職員数78（平成28年5月1日現在）である。小学部・中学部・高等部からなり、近隣の病院や自宅への訪問教育も行っている。また、近隣市の病院に小・中学部の院内学級を設け、指導を行っている。近年、病気の多様化や通学生の増加と共に、喘息・肥満等一般慢性疾患の児童生徒が減少し、精神性の疾患や発達障害をともなう児童生徒、医療的ケアの必要な重度重複障害児童生徒の増加に対応した指導内容の工夫が課題となっている。

■研究課題

特別支援学校のセンター的機能の可能性を探る取り組みとして、ICTを活用した授業作りの実践を通して、遠隔授業や病状に応じた学習の効果的な進め方、指導の方法について、明らかにする。

■研究の目的と方法

【目的】

病気によって登校ができない児童生徒が多い本校の特性を踏まえ、いろいろな場面でのICTを活用した授業をまとめ、少しの工夫で誰でも学校外で教室と同じ授業を行うことができるような実践例を集めていく。

【方法】

- 1 校内研究の10グループの中で、ICTを活用した実践の話し合いを行う。
- 2 各グループで実践の成果や課題についてまとめを行う。
- 3 ポスター発表で全校に周知する。

このような方法で、ICTを活用した病弱教育の遠隔授業や病状に応じた学習の効果的な進め方についてまとめる。

■研究概要

本校には、家庭や病院で訪問指導を受けている児童生徒がいる。そのような児童

生徒に対し、教員は「教室と同じ授業を受けさせたい」という願いを抱き、常に工夫を重ねて実践している。そこで、誰もが簡単にできるようなICTを活用した実践例を集め、まとめることとした。

【はじめに】 誰でも活用できる遠隔授業

「ICTは苦手だ」と話す教員に対し、機器をあらかじめ設定することで、気軽に活用できるようになった例と機器設定の方法について紹介する。

【実践例1】 高等部訪問学級でのオンデマンド学習

遠隔地で訪問指導を受けている生徒に対するWebによる遠隔教育の取り組みを紹介する。

【実践例2】 他県の特支校との交流学习

関東・甲信越地区病弱教育研究連盟で企画された他校とのWebによる交流学习について紹介する。

【実践例3】 病室にいても仲間だ！

ICTを活用した1つの教材を、校内外の指導に活かした重度重複学級の取り組みを紹介する。

【実践例4】 病室と体育館でレッツ、カーリング！

病室から出たり、皆と同じ教材を使ったりすることができない児童に対し、校内で使用している教材を縮小したものを作成して、録画した映像で運動会に参加した例を紹介する。

～実践を通して～

上記の実践から、次のような感想が挙がった。

- 授業に参加できなかった生徒も、学習空白を埋めることができた。
- 少人数の学習に広がりを持てる。
- 重度重複学級の様々な学習場面で活用できる。
- 様々な実態の児童生徒が一つの教材を共有して学習することができる。
- 生徒の生活に広がりを持てた。
- ICTを活用することで、場所を共有しなくても、一緒に学習することはできる。
- ☆遠隔地で授業を受けている生徒に対する評価をどのように行うか。
- ☆研修等を行う必要がある。
- ☆映像データの保存場所や保管方法についての工夫が必要である。

「ICT=Web」という誤った認識を持っていた教員が、本来のICTについて知る機会をもつことができた。また、「ICT活用は苦手だ」と言う教員も思わず使ってしまうような、気軽に挑戦できる取り組みが本校にはたくさん実践されていたことが改めて分かった。上記の実践例のほかにも優れた実践がまだまだ隠れているはずである。今後も、その実践を発見し、共有していきたい。また、今年度の取り組みを踏まえながら、気軽にICTを活用してもらい、さらに児童生徒への指導を充実させていきたい。
